校友時報

昭和33年2月8日
発行所 秋田県立能代高等学校新聞部
編集人 松岡貴紀
印刷所 大盛堂印刷所

平均点二三二点
魁模試 本校一位岩井紘一君
二年河田君は十三位

▽……一月十二日県内数カ所に於いて秋田魁新聞社主催大学入試模擬テスト……△
▽……が行われた。受験者は全県で一千八百四十六名、三県で六千八百二十……△
▽……三名いたが、本校受験場では二百二十八名が参加し、午前八時四十五……△
▽……分より五教科八科目にわたって一斉に行われた。

本校関係受験者は一九四名で、その内訳は卒業生九名、在校生一八五名（内二年生七七名）であった。結果は二七日発表されたが、それに依ると、本校の平均点は、二三二・六点で、三県平均の二二〇・四三、秋田県の二二〇・三九を軽く上廻っている。

又、テストの結果をみると本校は文科系教科である国語や社会、英語、特に国語は成績が悪い。それに反して理科系の生物や化学は他地区より勝っている。

本校の一位は、総点六二八点の岩井紘一君である。同君は秋田県で二位、三県で四位の好成績を収めている。三県の上位成績者中本校関係は、一六位（県一一位）の須田正己君、四一位（県二一位）の水木初彦君、五〇位（県三三位）の門脇恵三君の四君である。

又本校二年生の河田昌東君は、四一五点で十三位に入っている。

秋田県	総点	
二位	六二八点	岩井紘一
一一位	五九五点	須田正己
二一位	五六八点	水木初彦
二三位	五五九点	門脇恵三
五七位	四九七点	三浦睦男（卒）
六七位	四八一点	宮腰達郎
七七位	四六四点	石井宏
八六位	四五四点	工藤繁（卒）
九一位	四五二点	岩山勝男
九九位	四四三点	熊谷哲男
一〇七位	四三五点	高橋哲也
一一二位	四三三点	瀬川政広
一三三位	四二五点	河田昌東（二）
一三八位	四二二点	三浦義輝
一四〇位	四二一点	桜庭正哲

（写真 成績発表を見ている生徒）

論説
悲観的な吾々高校生

戦後の社会は真に混沌としていた。ジャーナリズムによっては戦後は既に終った等と報じられているが、この冷たい社会に充満している危機感が永久に無くならない限り、戦後はともかくとして、誰しもが心安めて寧せる生活は絶対に望めないのである例を挙げるまでもなく、この危機感と言われるものは、凡ゆる面に現われている。吾々に最も身近かで、且つ早急に解決しなければならない問題は、吾々高校生の生活状態である。

先日の朝日新聞の投書欄に「大学受験生に睡眠時間を」と題した一文が載っていた。言うまでもなく受験期にある一高校生よりのものである。それによれば睡眠の最低必要時間は八時間であるのに、勉強に押されて五、六時間しか眠ることができない。このことは体の弱い者にとっては非常な苦痛である。それのみか、高校時代は読書とか、情操の発育には最も適当であると言われているのに、そういうものに眼を向けている暇がないむしろ英語の一単語である。心引かれながらもそれを無視して通るその結果、安価な映画やベストセラーに走る。少々引用が長くなったが、要するにそれは大学入試の激化によるものであり、又激化の原因はというと大学の肩書がないと将来がおぼつかないから皆有名大学に殺到することだ。それにこの将来への不安は、高校生の不良化や自殺にも原因している。このことについて文部省はどんな対策があるか、と嘆き、これは受験勉強に疲れた者の弱音かも知れぬ。とにかく吾々にはもっと睡眠時間が欲しい。と結んでいた。いかにも悲観的な一文であることは〃弱音かも知れぬ〃というところで瞭然としている。ところがこの悲観的ということが即ち全高校生に共通した意識なのである。彼等は皆現在の状態の如何なるものであり又それが望む可からざるものであるということも知っている。それのみならず彼等は一度この問題に心を奪われると肝心の受験勉強の方が留守になり、志望する学校へも受からず、或いは親の期待に背くことになるということを何よりも一番良く知っているのである。だから勢い悲観的にならざるを得ない。仕方がないのだと眼をそらして通らざるを得ないのだ。従ってその思考力は体ごとの思考力とは違った非常に先鋭的なものになる。大きな問題にぶっかるとひとたまりもなく崩れ去る思考力なのである。

又この問題は大学受験生のみではない。就職生も又、高校生であるという点で同じ状態にある。それは反動として現われる。失礼かも知れないが、不良化しているもののゝ多くは就職希望者ではないのか。彼等も又将来への不安ということに於いてその思考力は先鋭的である。

このように現代社会の危機感は学園といわれる高等学校にも及んで来ている。現在の吾々は、昔日の学生とは違い、社会に密接につながっている。それだけ苦しみも多いのである。だがこの苦しみを失くすることが吾々にはできないものだろうか。私は、将来への不安を失くせば全てが解決するのでないかと思う。将来への不安、これこそは全ての可能性の芽を封じ進歩を妨げる元凶なのだから。吾々が現実を一歩々々正しく楽しく不安を抱かずに生活できるような時代は来ないものだろうか。

完成は四月の予定
建設中の新体育館

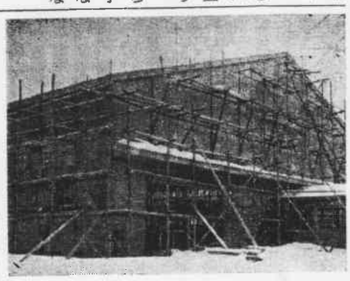
既報の体育館は、今、中田建設の手により着々と建設が進められている。完成は、大体四月上旬（六十六号に於いて十二月末としたが訂正）頃になる見込みである。

市内の新聞においては、体育館の地元負担金の折合がつかぬことを連日報道しているようであるが、これも、市や町村が体育館の建設に金を出さないというのでは無くして、市と町村の微妙な関係で三百三十万円の割合がつかないだけである。現に体育館の建設が進行している以上、何れは捻出できると思われる。

又、同窓会や、期成同盟会等も活発に活動しており、寄附としても青森県の岩崎よりのものや、母姉妹の食堂や売店などがあり、資金問題は、完成と共に解消してゆくものと思われる。

現体育館はそのまま

校長先生談「新しい体育館ができても現在の体育館はそのまゝ存置する。それから完成するといろいろな会合に使用されると思う。そうなるとステージが必要であるが、今のところは予定していない。ステージ一つ作るにしても二百五十万か三百万かゝるわけだ。いずれおいおい作ってゆきたい。又、新しい体育館に部室を作ってもらいたいとの声も聴くが、これも予定はしていない。予定してはいないが、これは是非作らなければならないと思っている。」



二ツ井地区 PTA開かる

去る一月二十六日、二ツ井地区のPTAが開かれた。この地区別のPTAは父兄の要望で計画したもので本年初の実施である。出席者は三七人で、担任教師らとコースや成績の問題、生徒の生活指導特に汽車通学上の不便な点や風紀等について話し合った。

輪になって読む会
四先生の講師で

「本を読もう」をモットーとする本校図書部では、今回「輪になって読む会」即ち輪読会を企画した。講師は篠塚、清水、白鳥、安島、の四先生である。篠塚先生は英語物語「月は沈みぬ」をテキストとし、参加者七名、清水先生は十名、白鳥先生は、唯物論入門、新ヒューマニズム、社会思想史をテキストとし十二名、安島先生のテキストは源氏物語で参加者は十名である。

尚、図書部では、これについて次のように語った。

「かねてからこのような会が欲しいと考えていたが、最近投書にも良くあったので、講師を諸先生にお願いしたところ、御協力を得たので発足に至った。固苦しい勉強と違って、本を読み、意見を交換し、見識を高めようという会である。又、教師と生徒が何の気兼ねなく話し合えるのもこの会の特色であろう。視野をもっと広く持ちたいと思っている方は奮って参加願いたい。」

予餞会は二月十五日に
新しい試みも

〔島田生徒会長〕

風雪の三年間、学び舎を共にして来た三年生が、この学校を去るのは三月三日であるが、これに先だつ予餞会は二月十五日に島田生徒会長の手によって行われることに生徒委員会に於いて決定をみた

生徒委員会は去る一月十六日に十七番教室で開かれたが、席上予餞会に関する執行部原案は、絶対多数で可決された。それによると時間は一時から四時三〇分までの三時間半で、司会は一Aの檜山彰一君によって行われる予定である記念品としては、卒業生全員に百三十円相当のバックルを贈呈することに決った。

昨年になかった新しい試みとしては、優秀な演し物を三年生の投票で一位から三位まで選出して賞品賞状を呈することになったことである。又、投票の集計の際の時間を利用して飛び入り勝手の福引きをしてもらうことも予定している。学校側からの要望としては、時間を有効に使うこと、出す物は一応教師の目を通すことゝいうのがあった。

尚、当日の委員会に二Dより提出されたウエイト・リフティング部の新設要請は予算等の都合で学校の許可があればもう一度生徒会にはかるということになって散会した。

南北合同で修学旅行
来年の一年生

高校三年間に於いて最も顕著な想い出となる修学旅行は、又今年も現一年生の間に行われるが、今年は北高校と合同で行くことに話が決った。

乗客が五〇〇人以上になると準急程度の早さ、一般客は乗せないという特別列車を出せるのでこの話が起ったもので、はじめ交通局から話掛けがあり、北高校と相談したところどちらも秋、コースは大体同じなどの条件が大体一致したので、この運びとなった。但し同じなのは汽車だけで、コースや見学場所、旅館等は違う。

『松陵』27号発行

本校文芸部ではこの度、二年生による新メンバーで『松陵』二十七号を発行した。作品の大部分は現二年生による。当部では次号掲載の原稿を募集している。

全国PFC誕生
倉敷市を中心に

本校にこの程全国ペンフレンドクラブが誕生した。このPFCは岡山県を中心に、全国高等学校新聞部を中心に会員を募集しているもので、目的は、現実に歪められた苦しみの多い高校生に一滴のうるおいを与えるためとある。本校では、新聞部長代理として、二年の山内進則君が支部長となっている。

会員は十一月一日現在で二三〇〇名前後、本校に於いては、二〇名に満たないが、既に自分の希望した趣味、年令の人と文通しているものもいる。

山内支部長は「今年出来たばかりでしっかりした組織もわかっていないが、入会金五〇円あれば手軽に自分の好む人誰とでも文通できるという特長がある。入会したい人は来て下さい。」と言っている。

三角点

▼本年度後期の生徒会役員は、生徒会長に島田伸三君、副会長には渡辺淳君、応援団副団長には、夫々佐藤一之君、金谷義昭君が当選した。

全国各地の高校で生徒会に代る静徒会の低迷さが問題になっている今日、四君及び各部諸君の奮斗を期待してやまない。

▼愈々大学或いは就職の試験も大詰めに近付いた。三年生諸子は額に汗して日夜頑張り続けていることゝ思う。幸運を祈る。

▼これら三年生がこの三年間親しんだ学び舎を去ると入れ代りに又新しき松陵健児が入学する。上級生諸君は宜しくかぶとの緒を締めねばなるまい。今年こそは、本校からのみあらず高校生一般の間より不名誉な暴力事件を一掃す可きである。

▼又、その為には上級生ばかりではなく、下級生も充分に注意して然る可きであろう。ドイツの小説に「殺された者に罪がある」というのがあるが多くの場合被害者にも罪があるものであるからだ。だが、それだからと言って暴力を是認するわけではない。

▼過般、風紀部で下駄の盗難状況についての調査を行なったが、その結果判明したのは、下駄盗難の総数が何と六八八足という事実である。これを一人一足と勘定すると盗難に会った者は六八八人、盗難に会わないものはわずか一二人のみである。

▼一体これはどういうことを意味するか。まさか一人で六八八足を失敬したとは思われないから、大体全校生徒の半分四〇〇名が下駄窃盗容疑があるわけだ。

▼下駄ばかりではない。その他の盗難にあった物の最高はズック靴で九二人、次が帽子。その他参考書、帽章、帳面、白ズボン、鉛筆ありとあらゆる物に亘っている。

▼一体これはどうしたことか。こういうわけだから時の政治家によって道徳教育が説かれるのだ。もっともそれが徹底しても根絶することは思えないが。

スピーデイの万年筆
実用第一のメガネ
カモヤ
畠町 TEL464

時計はセイコー
やなせ
畠町 TEL779

もうすぐで運動の季節です。今から運動具を揃えておきましょう。
能代スポーツ
柳町

参考書・雑誌
一長堂
畠町 TEL50

文房具なら當店へ
紙・紙加工品・帳簿
事務用品
キムラヤ
畠町中央 TEL2.136